中部整備局と大成ロテック中部支社

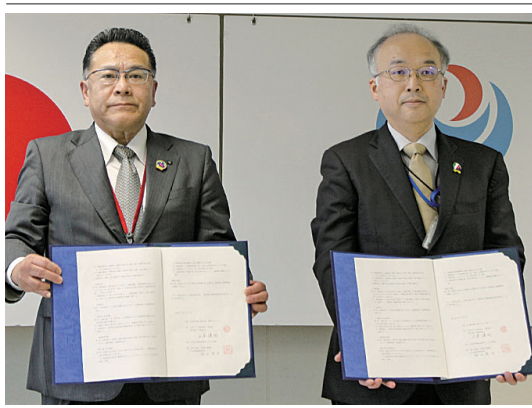
清掃ボランティアで協定

良好な道路空間を確保

中部地方整備局名古屋国道事務所と大成ロテック中部支社は11日、ボランティア・サポート・プログラムの協定を締結した。同日、名古屋市瑞穂区の同事務所会議室で行われた締結式に神田忠士所長と山本達也執行役員支社長が出席し、協定書に調印した。

ボランティア・サポート・プログラムは、良好な道路空間を確保するための制度。道路管理者である名古屋国道事務所と実施団体が協定を結び、決められた区間の道路環境を向上するため道路の清掃や除草などを行う。中部支社の活動範囲は、愛知県小牧市内の国道41号のうち下小針中島2交差点付近の歩道と下小針歩道橋の清掃を行う。

神田所長は、今回の締結が111団体目でボランティア・サポート・プログラムの取り組みが広がっているとの認識を示し、「歩行者や自転車などが通行する中での作業。夏は熱中症の恐れもある。けがのないよう安全に配慮して取り組んでほしい」とあいさつ。山本支社長は「工事や合材工場の脱炭素化に取り組む中で、特に二酸化炭素（CO_2）を多く排出する合材工場周辺の環境美化にも貢献するため活動に参加する。国土交通省が管理する道路沿線の活動は支社では初めて。地域の皆さんに喜んでいただける活動を誠実に取り組んでいきたい」と意気込みを語った。



神田所長㊨と山本支社長

※無断転載・複写不可